

平成 29 年度 第1回江南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 29 年 7 月 27 日 (木) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 50 分まで
会 場	江南区役所3階 302 会議室
出席者	江南区自治協議会委員 25 名 教育委員: 沢野教育委員、上田教育委員 事務局: 古俣教育次長、教育総務課長、地域教育推進課長、 学校支援課長補佐、亀田地区公民館長、亀田図書館長、 江南区教育支援センター所長・指導主事
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(沢野教育委員、上田教育委員) 3 平成 29 年度教育委員会の施策について(教育次長) 4 意見交換(司会 江南区教育支援センター所長)
自治協委員	学校支援ボランティアの延べ人数は多く感じられるが、熱意のある方々が何回も参加くださっており、実人員は限られている。 学校に、地域の行事への参加を子どもたちに勧めてもらえますかとお願ひしても、部活があるので無理等のことが多い。 もっと地域のほうに、子どもが出てくれるとより多くの地域の人と触れ合えると思うので、学校も、部活を休んでもOKというような、少しやさしい考えを持っていただけたら地域としても助かると思う。
教育委員会事務局	現在、「部活動のあり方検討会議」を教育委員会内で立ち上げて、今後の方向性を検討するため、各中学校の教員、生徒、保護者の全員にアンケート調査を実施し、集計しているところ。 特に休日の部活動等についても見直しを図るべく、その調査などを基に、地域にも参加できるような体制が取られればよいと考えている。 働き方改革とも絡むが、見直しをしていきたい。各学校にも地域の行事等を大切にしていこうようにと伝えていきたいと思う。 地域の方々との関わりも、子どもたちにとって大切な学びだと思う。 地域と学校パートナーシップ事業は今年 11 年目を迎え、学校や子どもたちは、地域の皆さんとの関わりの中で、「日頃聞けないお話を聞いた」、「地域の皆さんから助けてもらった」ととらえており、恩返しや貢献をしようという「地域貢献活動」が徐々に広まってきており、江南区は全ての学校で実施している。 地域のお年寄りのための活動、お祭りへの参加、地域の環境美化活動など。 委員のお話はそれをもっと拡大してほしいというご意見だと思うので、それが学校にとっても、子どもにとってもプラスであるということをお話いただき、ただ、学校も非常にたくさん内容があるので、折り合いをつけてできるところから進めていただきたいと思います。

自治協委員

介護保険が公的な仕組みだけでは立ちゆかなくなってきたということで、コミ協では地域の住民同士が支え合いのしくみを作る活動を始めたところである。子どもたちも地域の住民の一人として、活動までいかななくても、子どもなりに理解できる機会を作っていただけないか。

社会保障や福祉は現実の生活に直結する問題なので、子どもなりに問題意識を持ってほしい。

7割以上の家庭が核家族という中で、高齢者に関わる機会や福祉問題に触れる機会というのは、本当に少ないのではないか。

教育委員会
事務局

今の少子超高齢社会の中で、地域の皆様が支え合いのしくみづくりに取り組んでいただいていることに新潟市としても感謝している。

現在、少子化社会のため三世同居がめずらしい家庭環境の中で、実際に社会で起きていることを子どもたちに学校現場としても教えていく必要があると思う。

それが地域の課題なのか、国の課題なのか、どんな教科の中でやるか考えながら、常に子供たちに社会情勢をきちんと伝えたいという教育をしていくということになると思う。

自治協委員

各地域で世代交流会を行ったり、学校で福祉施設にボランティアに行ったりしているが、地域から子供たちにイベントへの参加依頼を出しても多くの参加は見込めない。意識はあっても送迎などの保護者の都合もある。

参加するだけでなく、お年寄りが楽しむために、子どもたちは何ができるのかを主催者側も学校にアピールすると、参加も増えていくのでは。

自治協委員

休日に開催するコミ協や地域主催の防災訓練では、中学生の参加はほとんどない。一方、学校では独自の防災訓練をやっているのに、学校の訓練に、地域の方からの参加を回覧等で呼び掛けたらどうか。学校に入って見てもらうことができると思う。

体験学習で、先生方も地域に出ていくが時間が限られており、児童の下校後も先生方は忙しい。もう少し地域とのかかわりの時間を持ってないか。

昔は地域のお祭りの時は下校時間が早まった。現在はそうではないので、練習も下校してからになり不十分。その辺を緩和してもらえると、もっと地域に入れるし、保護者も地域を盛り上げようという思いになれるのでは。お祭りを勉強しても、じっくりと参加できないのでは残念。

教育委員

勉強するだけでなく、実地で体験するのが大切なことだと思う。西区で、盆踊りに学校とPTAが団体として出たり、先生も巻き込んでいるところもある。お祭りは参加しやすい地域の行事なので、先生たちを巻き込んでやれば良いと思う。

自治協委員

8月25,26日が亀田祭りで民謡流し、岩万燈がある。コミ協として、亀田甚句のお囃子講座に取り組んでおり、7月に毎週1回50人ほどの子どもと保護者の参加がある。樽太鼓、笛、歌を練習し、仕上げとして、8月11日に小学校の体育館で、コミ協主催の盆踊り大会に参加する。200人程度の参加があり、祭りにつないでいく。祭本番でお囃子をやる人も出ている。地域文化の継承の形で子どもと地域の接点を設けている。

教育委員会
事務局

コミ協は後継者難で、若い人たちにつなげていきたいが、その人たちは小学生の親世代であり忙しい。パートナーシップ事業の説明には、PTAとしての参画の数はなかったが、どのように考えているか。

子どもたちと地域が一緒になって参加していく仕組みを作り上げていただいております。地域と学校保護者が工夫していくことで、関われる仕組みを作ろうという一つの例だと思いい、大変参考になった。

パートナーシップ事業に協力いただいている「地域」の中に、PTAも含まれる。子育て中で忙しいが、この日この時間なら協力できるなどと、地域の一員、子どもの親として関わりたいと考える方々は多いと思うので、その気持ちを大事にして関わっていただく仕組みができるとありがたい。

自治協委員

市の小中学校PTA連合会では、地域とのあり方も検討していると聞いている。

先生方との関わりが、やはり一番大きな課題。

お祭りやイベントは土日や夜など時間外の時間であるが、気持ち良く参加してもらうにはどうしたらよいか。

地域住民も先生方が関わってくれることでつながりを感じるので、教育委員会で時間外の対応などがあれば先生方も参加しやすいと思う。

教育委員会
事務局

なかなか難しい問題で、多忙化は数年前から問題になっており、市としては行動計画をつくったり、スペシャルなテーマとして教員の側から取り組んだりしている。

そういう中で、教員の気持ちの中に余裕が生まれて、子どもたちや地域に関わる時間が増えることにもなるので、まずは多忙化の解消が喫緊の課題と考えている。

パートナーシップ事業は、子ども、学校、地域がそれぞれ元気になることを目指しており、皆さまから良い取組みなどを教えていただいて、学校に伝えることを通じてこれからも考えていきたい。

自治協委員

大江山地区の北山地区は、地域では亀田甚句を踊っており、地域の子ども会でも樽たたきを伝統的に先輩が後輩の子供に教えているが、元々新潟市なので、学校では新潟甚句を踊ることになっている。

保護者からも、学校でも体育祭では地元の踊り（亀田甚句）を踊っ

教育委員会 事務局	<p>たらと言う意見が多く、地域に根差したものを学校でやるようにしていただきたい。</p>
自治協委員	<p>強制することではなく、地域に根付いた文化を学校教育に入れていくということを、学校にもきちんと伝えていきたい。</p>
教育委員会 事務局	<p>亀田地区公民館長, 亀田図書館長から説明</p> <p>昨年度の出前型ふれあいスクールは、3回連続の参加でと言われた。地域からたくさん参加してもらうには、講座の持ち方を工夫するのが重要だと思う。参加しやすいことと、子どもと一緒に学べること。子どもたちだけでなく、大人もだれでも参加できるものをお願いしたい。</p> <p>コミ協が「うちどく」活動をされていたとのことだが、具体的に知りたい。</p> <p>学校では朝読書が減ってきているようだが、朝読書の後に学習に入っていくと、心の安定によいと思う。もう少し読書に親しむ指導もお願いしたい。</p>
自治協委員	<p>連続でやった方がよいもの、できるだけ多くの方から参加していただきたいものなど、もう一度再考して、大勢の方が気持ちよく参加できるように考えていきたい。</p> <p>大人と子どもと一緒にのもので親子体験事業があり、保護者が仕事等で参加できないケースもあるようなので、配慮していきたい。</p> <p>「うちどく」は、主に学校で取り組んでもらうが、コミ協にはブックリストを地域で作っていただく時に、この本はお勧めですといったものを寄稿していただく。</p> <p>さらにコミ協だより等で、「うちどく」の取り組みについての広報をしていただいている。</p> <p>朝読書は基本的には好きな本を好きなだけ、感想を書かないというフリーな形で短時間でやっている学校が多い。この活動により、授業が落ち着いてスタートできると聞いている。</p> <p>ただ、他の学習とのバランスを取ろうとしている学校もある。読書の大切さを忘れたわけではないが、他の必要なこととのやり取りで学校ごとに対応している。</p> <p>亀田東小では、朝読書をPTAの関わりで実施している。子どもをおんぶして来てくれる若いお母さん方もいる。子どもたちはとても落ち着いた様子で授業に入っていけるようだ。</p> <p>公民館のふれあいスクールも亀田中では3回コースで実施した。地域の方が中学校に足を運ぶのはなかなか難しいが、公民館から声かけいただき、とてもよいつながりができたと感じた。</p> <p>参加者の仲間づくりで盛り上がり、中学校のボランティアに協力くださるとよいと考えていたが、難しかった。</p>

今年度も公民館と一緒に、別な形で中学校を使っただけと考
えている。地域の方々に、学校は敷居の低い集まりの場所ですと伝え
ていきたい。

教育委員

地域の活動の紹介の中で、課題も提供いただいた。教育委員として
も、パートナーシップ事業の継続のために、考えるべき課題などを今
検討しているので、ご意見を活かしながら今後話を進めていきたい。

また、中学校に集まった地域の方々を、次につなげたいという思い
を持ってやられるというのはすばらしいと思う。

私たち子どもに関わっている人たちの中には、これまで出会った一
生懸命にやっている人の見本を持っており、子どもたちや地域の方々
も皆さんの後ろ姿を見て、いつか地域のためにやってくれることを期
待したりしながら、今やらせてもらっているのです、励ましあいながら
やっていけたらと思う。

教育委員

今日はたくさんのお話を聞きでき、課題もヒントもたくさんいただ
いた。

どんどんやり続けていくことで、見ている人が後を追ってくれるこ
ともあると思うし、PTA、若い親御さんは忙しく、ボランティアや
お手伝いの形が決まっていると、「私は無理」となってしまうので、例
えば企画で使うものを自宅で作ってお渡しするとか、その場には行け
ないがボランティアに参加したと言えるような考えがあれば、気楽に
やれたり、これならできるという方がいると思うので、柔軟に考えて
広げていくことも必要と思った。

議 事

5 自治協議会会長挨拶

先生方は働き方、時間の配分に非常に苦労されている。各家庭が学
校に依存していることも一因ではと思うので、家庭教育の充実をしっ
かり考えて、学校を通じて各家庭にフィードバックすることも必要で
はないか。

今日はコーディネーターの方や地域に関わる方などがたくさん出席
されており、ご苦労があるかと思うが、これから若い世代がまっすぐ
伸びて、江南区の役に立ってくれるようにご尽力いただきたいし、こ
れを機に再度子どもたちの未来というものを考えていきたいと思う。

6 閉会